

作曲公開講座

講師：ジョルジュ・アペルギス

サントリーホール サマーフェスティバル 2025 テーマ作曲家

2025 年 8 月 25 日（月）18:00 開演 17:30 開場

会場：新 1 号館 142 オーケストラスタジオ

入場料：無料

—プログラム—

【講演】自作曲「Crosswind ヴィオラとサックス四重奏のための」を中心に

お話：ジョルジュ・アペルギス

通訳：台信 遼（本学講師）

【実演】Crosswind ヴィオラとサックス四重奏のための

Viola：坂上 ちひろ

S. Saxophone：中谷 慎之介

A. Saxophone：木村 美雨

T. Saxophone：今坂 琉那

B. Saxophone：高橋 幹太

指揮：山本 哲也（本学講師）

—講師プロフィール—

ジョルジュ・アペルギス Georges Aperghis, composer

ジョルジュ・アペルギスは 1945 年にアテネで生まれ、1963 年以降はパリを拠点に活動しています。彼の作品は、言語と意味に対する問い合わせを核とし、器楽、声楽、舞台作品を問わず「意味の理解可能性」の境界を探求しています。物語が立ち上がりながらも突然否定されたり遮られたりする「偽の道筋（false trails）」を創出することで、聴衆の関心を惹きつけ続けることに重きを置いています。

アペルギスの音楽は、現代音楽における支配的な美学に形式的に帰属せず、他の芸術領域との対話や、他者に対する徹底的な開かれ方によって、同時代性を体現しています。電子機器、映像、機械、自動装置、ロボットなどを作品に取り入れることで、その「他者性」は革新性と結びついています。

アペルギスは、俳優（エディット・スコブ、ミシェル・ロンズダール、ヴァレリー・ドレヴィル、ジョス・ウーベン）、演奏家（ジャン=ピエール・ドルク、リシャール・デュベルスキ、ジュヌヴィエーヴ・ストロッサー、ニコラス・ホッジス、ウリ・フッセネットガ）らと密接に連携し、彼らは創作プロセスの完全な一員として関わっています。1990 年代以降は、ダンス（ヨハンヌ・ソニエ、アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル）や視覚芸術（ダニエル・レヴィ、クリスト・デ・ヘーゼラール、ハンス・オプ・デ・ビーク）との新しいコラボレーションも展開しています。

ヨーロッパの主要な現代音楽アンサンブル（イクトゥス、クラングフォルム・ウィーン、リミックス、ムジークファブリーク、アンサンブル・モデルン、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、ヴォーカルゾリストン、SWR 合唱団など）は、アペルギスに継続的に作品を委嘱し、彼の作品をレパートリーに組み入れています。

※ 車いすでご来場の方は、事前に演奏芸術センターにお問い合わせください。

※ 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

※ 公開講座開催に際しまして留意事項がございますので、本学公式 Web サイトよりご確認ください。

※ やむを得ない事情により出演者や内容等が変更になる可能性がございますので、予めご了承ください。

※ 事前申し込みは不要ですので、直接会場にお越しください。詳細は本学公式 Web サイトをご確認ください。



サントリーホール

サマーフェスティバル 2025

テーマ作曲家 ジョルジュ・アペルギス特設 Web サイト



本学公式 Web サイト



主催：国立音楽大学 協力：サントリーホール

お問合せ：国立音楽大学演奏芸術センター 042-535-9535 <https://www.kunitachi.ac.jp/>